

## A-2. 「草で遊ぼう」「見つけたもので遊ぼう」

岡崎市島坂保育園(愛知県岡崎市)

[3~5歳児]

散歩を通して保育者や友達と見・聞き・触れ・摘み・味わう・そこから生まれる遊びの中で、「なんだろう・やってみたい・おもしろい・すごい・ふしぎ」という気づきや問い合わせ(感じる心)を持つであろう。

そして散歩後に図鑑・科学絵本と一緒に見る・調べることにより「知りたい」という気持が「わかる」喜びに繋がり、押し花をして深められるであろう。

また、共通体験・遊びを伝え合い異年齢児への会話に繋がり、かかわりが広がるであろう。

このような一連の経験の中でのつぶやき・行動などを考察し、より適切な援助(ゆさぶり)を探る。

### 《気づきや問い合わせや意欲・人とのかかわりを生む》

#### 鹿乗川付近の散歩をした事例

4・5歳児

(4・5歳児混合学級)

5/9(月)

鹿乗川の様子を見よう(初めての散歩)

##### 【生物を見つけ、特徴を知る】

『川には何がいるかな?』と問いかけると「おおきなさかながいるよ」「くろくておおきいよ」と感じたことを言う。『あの魚は「鯉」という魚だよ。ひまわり教室で見たみかちゃんと一緒に、何か変な泳ぎ方しているね』「ほんとうだ、そこにうごいてる」「いっぱいいるね」みんな川をのぞき込みコイを捜し見つけると喜びを伝え合い、大騒ぎする。

乙子は園外に出るなり「キャーキャー」声を出しとても嬉しそうな表情がうかがえ保育者と手をつないで歩く。

「あっ!スズメがいるよ」「かわいいね」「わたしもスズメしってるよ」、『川の中に鳥が2羽およいでいるよ、何という鳥かな?』には答えず『何色をしているかな?』と言うと口々に「くちばしがしろいよ、あたまがちゃいろだよ」「はねもちゃいろだよ」「くびがしろいよ」。『あの鳥は力モかな?ねえあそこ!鳥が飛んで行くよ、サギのよう』「しろいとりだね、きれいだね」(名前が定かでなかったので投げかけはしたもの、後で確かめておかなければと思った)

「先生かめがいる!」「いっぱいいるよ!」

『こうらを干しているんだね』「あっ!もぐったよ、よいでの」(見つけたものの、触れない場合 特徴を大きさ・色で表す位であった)

##### 草花を摘もう【長短に気づく】

##### 【同種類・異種類を知る】

『この花なんという花かな?』と一面に咲いているシロツメクサを指さして尋ねる。「しってるよシロツメクサだよ」と言い1本・2本と摘み始める。(同種類のものを多く集める)

他児もそれに連れて摘むが数本でやめてしまったので、『シロツメクサをいっぱい摘んで首飾りを作ろうか』と投

3歳児

5/10(火)

草花を摘もう(初めての散歩)

##### 【草花に名前がある事を知る】

『この花なんという花かな?』と一面に咲いているシロツメクサを指さして尋ねる。「なにかなあ?」「シロツメクサだよ」と一人が言うと、「シロツメクサ」「シロツメクサ」と数人が答える。『そうね、よく知っているね、シロツメクサだね』(興味が出たようで)「シロツメクサ」と言いながら摘み始める。

茎を短く摘む子が多い中、長く摘む子がいたので、『○○ちゃん長いね』と言うとそれを聞いて長く摘み出す。「ぼくこんなに長いよ」「わたしこんなに」と得意そうに見せる。

『シロツメクサをみんな摘めたかな?』摘めた子は見せに来るが数人はまだであった。

おとなしいF子に活発な男児が摘んで、渡そうとしたが、自分で摘みたそうな表情が伺えた。『Fちゃんそこに座って摘んでみる?』F子はにこやかな顔になり、座ってシロツメクサに手を伸ばし遂に自分で摘むことができた。

『Fちゃん自分で摘めたね』日頃あまり表情の変えないF子であるが、満足そうになる。

(自分でできたことが自信に繋がるであろう)

##### 【摘みながら特徴を知る】

全員摘めたことを確認し、先に進む。ハルジオンがいっぱい咲いている。『この花はハルジオンだよ』と知らせる。「ハルジオン?」と口々に言う。『ハルジオンも摘んでみようか』すぐに摘み始めるが、シロツメクサのように簡単に摘むことができない。するとG男が「こうやってとれるよ」と茎を折るようにして引っぱる事を示す。そして他児にも伝える。F子もなんとか自分で摘



げかけるとそれに答えてどんどん摘む。そして「先生こんなにいっぱい」と手に持てない位になると得意顔で見せに来る。『○○ちゃんの長く摘めたね』(茎を長く摘むと首飾りが作り易い)次々に摘み始める。

「こんなに~~ながいよ~~、わたしとどっちが~~ながい~~かな」と友達同士比べ始める。

『○○ちゃんのピンクの花きれいだね』と違う種類の草花を見つけている子に声を掛ける。すると色々な花を摘み始める。

#### 草花で遊ぼう【遊び方を知り、伝える】

「先生！おとがでるからきいて！」と5歳児R男「ブーブー」。周りの子も耳を澄ませ聞く。『ブーブーって聞こえたよ』保育者も真似をするが上手く音がない。『難しいね』4歳児S子が「わたしもつくりたい」と言う。それを聞いてR男がS子に「これあげる」と渡す。しかし残念ながら吹いてみても音が出ず、保育者も手伝うがやはり音が出ない。(吹くのにコツがいるようだ) S子は他の保育者のところに行く。



#### 押し花にしよう

5/13(金)

【知らないことを知る喜びを味わい、より草花に興味関心を持つ】

#### 【押し花の仕方を知る】

散歩で2回見つけた草花を、図鑑で調べたり押し花にしたりする。

摘んできた草花を絵本や図鑑で調べ、調べた名前を伝え合う。「わたしこれ！」などと好きな物を手にする。『持っている草の名前が呼ばれたら押し花にするので、来て下さい。(調べた草花の名前を印象づける)「これでいい」と友達に確認して持ってくる子、自分でわかりすぐ持て来られる子、呼ばれてもわからず友達に教えてもらう子など様々な姿が見られた。

それらを丁寧に電話帳のページにティッシュを敷いて挟み込んで押し花にする。

め「ハルジオン」と言いながら歩く。

#### 草花で遊ぼう【遊び方を知る】

先に進むとタンポポを見つける。綿毛を吹いて飛ばしてみせる。「これしってるタンポポ」『そうだねタンポポだね』と言う。

さっそく綿毛を捲し、吹いて飛ばす子・わらべうた「たんぽぽ　たんぽぽ　たんぽぽたん」と歌いながら吹いて飛ばす子などがいた。

次に茎を切り(3cm位)片方の先を少し噛んだ物を鳴らしてみると面白い音と感じたらしく、

『鳴らしたい子はタンポポを摘んできてね』と言うとほとんどの子が摘み、差し出してくる。

3cm位に茎を切り片方を噛み渡し、吹くことを知らせると「ピーピー」「ブーブー」「プープー」と高い・低い音・色々な音を鳴らすことができた。上手く鳴らすことができた子は満足げであったので、できない子にどうしたらよいかと考えさせコツをつかませるように付き添った。(満足感が次の意欲をもたらす)

#### 押し花を見る

6/13(月)

年齢順に押し花を布に貼ったものを見せた。変色しているので、よくわからないであろうと思ったが、3歳L男「シロツメクサ、いっぱいとった」

4歳D男「これしってるスイバすっぱいやつ」

5歳N子「これで遊んだよね、なかなかとれんかったね」

Y子「オオバコずもう

したよね」などと口々に取った時の状況や印象も話していた。

(押し花は過去のものではなくて現在に繋がっていると思った。)



#### 【その後の姿】

その後の散歩では、知っている草花を見つけたり、見つけたもので遊んだりする姿が活発になった。

また、調べるという面白さや見つけた時の喜びを味わえたことで、家で咲いた名前を知らない花を園に持ってきて、調べる姿も見られた。

## ポイント

4、5歳児（混合学級）と3歳児の子どもたちが、同じ場所に、同じように初めて散歩に出かけた事例から、年齢による感じ方や気付き方の違いが見えてきます。初めて経験する活動では、その子なりに様々に探索行動をすることで感じたり気付いたりする姿から、「科学する心」を捉えられることが分かります。保育者は、子どもたち一人一人のままの姿を受け止めてかかわり、その反応からすぐに指導を振り返り、指導を重ねています。自然の中では、保育者自身が周囲の自然を感じ取り、子どもたちに添う援助をすることで、子どもたちが草花や周囲の自然に興味を持ってかかわることができました。また、園に戻って活動を振り返る工夫がされ、さらに子どもたちの豊かな気付きへと結びつきました。